

ツキ板に
生きる

〈第1部〉

尾山金松の生涯



尾山履物店を創業



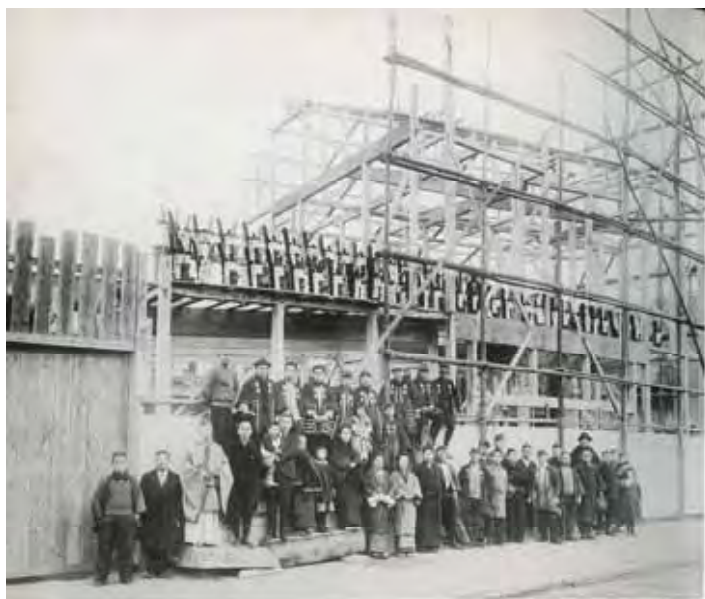
二番目の妻みさをに抱かれた登
向つて左が現在の妻キクの少女期



初めての妻ココ



徴兵検査を終えて



昭和12年入谷町215番地に店舗を



昭和20年5月30日
神教直符の巻の結婚式



三重目の妻はつ



貴隆と一穂に



北商から北三ノ

ツキ板に生きる

(第一部)

尾山金松の生涯

楽しみも苦しみも

嬉しきことも憂きことも

世の有様をつづくと

人の身上今日みれば

あすは我身の上となる

げに定めなき浮雲の

月の光を見やしやんせ

晴れては曇り

曇りては晴れ渡る

みな何事もかくあらん

必ずくよくよ思わずに

心大きく持たしやんせ

八十六歳

尾山 金松

ツキ板に生きる

尾山金松の生涯

目次

タモの杓	1
忘れられない碎米の味	3
手作りのミットでベースボール	9
今川焼	15
弟子入り	21
徴兵検査	27
馬がかじったような仕事	34
これが北海道だ	40
結婚	48
八人で山開き	53

北三の創業	128
黎明	116
東京進出を決意	110
関東大震災	104
“商い”への道	98
長男登の誕生	92
東京で知った商売	85
みさをとの結婚	80
大正の大恐慌	75
妻との死別	69
再び山林にチャレンジ	64
長女律子の死	58

サーカサシアン											
ウオールナット											
194	188	182	177	166	159	153	148	142	137	132	128
	差押え	電動スライサー	ツェツペリン伯号	タモの上杓	父の死	亀の甲羅	「北三商会」に改称	みさをの死	決別	ツキ板屋開業	精工舎に売り込む

一粒の種

199

暗雲きざす日本

205

古木春に逢いて

211

恩師「立定」

221

尾山金松氏の功績調書

223

あとがき

236

タモの柁モク

北海道の山々にも遅い春が訪れる。

うず高く降りつもった雪が濁流となって海に流れ出すと、雪の下には、はや若いのちが息づいている。

私は、まだ深い残雪を踏み分けながら山道を急いでいた。

昨年、九州の段谷福十氏と契約した下駄棒十万足の納期が切迫していたのである。

ふと、私は道端の異様なふくらみを持った「タモの切り株」に目がとまった。

タモはモクセイ科に属し、北海道の代表的な木材である。

この地方では、冬、雪の上で立木を伐採すると、乾いているような粉雪の上をソリで山だしする。雪の上できり倒すから、雪がとけると地上に一メートルも高さのある切り株が顔をだすのだ。

私は衝動にかられて、やにわに腰に下げた手斧を振りあげて、その切り株のふくらみを削った。黒くなった樹皮の下から真白い木肌に、うず

を巻いたような「もくめ」が現れた。

その、あまりの美しさに、私はしばらく我を忘れて見惚^とれていた。

「朽ちるにまかせているこの沢山の切り株。このなかには、このように美しい柰木が少なからずある。生かす道はないだろうか？ もし生かすことが出来たら！」